



ほうたん坊（池）で釣りをする少年  
（昭和41年）（小室初枝さん提供）

光山小学校が建設される前の昭和41年ごろの写真です。当時は、大小3つの池があり、写真は線路側の小さい池で撮影されたものです。右側で釣りをする少年は、近所の子どもたちで、奥に見える大きな池が干上がると、野球などをして遊んだそうです。

現在は、光山小学校が建設され、校舎とグラウンドになっています。

現在の風景

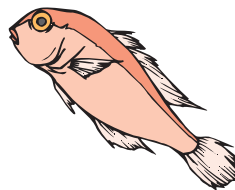


募集中

昭和50年代ごろまでの昔の写真を募集しています。提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎(295)2112 内線332までご連絡ください。

徒然歳時記

アマダイ



甘鯛には「興津鯛」という呼び名があります。その昔、徳川家康の奥女中に興津の局という人がいて、里帰りの土産に甘鯛の生干しを献上しました。これをいたく気に入った家康が「この魚をこれからは興津鯛と呼ぶがよい」と言ったので、この名が付いたと言われています。また、頭部が大きく、著しいおでこ型をしているため「馬頭魚」と呼ばれたり、鯛の名前がついていますが、タイ科ではないため鯛の名にあやかる「あやかり鯛」とも呼ばれます。

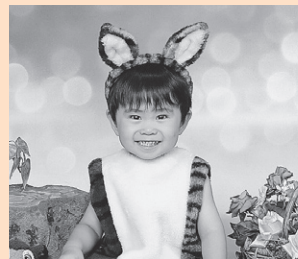
甘鯛は海底の砂の小山に横穴を掘って暮らす習性があります。また、小型のうちはメスとして産卵しますが、大きく成長すると、オスへ性転換（雌性先熟）するというおもしろい生態もあります。

甘鯛の旬は、産卵後体力の回復した真冬ですが、水分が多く身がやわらかいので、薄塩で身を締めてから料理をするとその名のおり甘味が増します。良質のたんぱく質やビタミン、ミネラルがバランス良く含まれている甘鯛を使って、みなさんも徳川家康が好んだとされる生干しの塩焼きをはじめ、昆布締めや唐揚げ、鍋物など、さまざまな料理を楽しんでみてください。

編集後記

12月17日、NHKの昼番組「ふるさと一番」で毛呂山町のゆずが紹介されました。番組のなかで、司会の潤随操司アナウンサーが「農業としてゆずの栽培を始めたのは、毛呂山町が全国で最も早かった地域のひとつです」と紹介してくれました。放送終了後、全国各地から問い合わせが殺到し、改めてテレビ放送の広報力に驚かされました。（Y）

わがやのアイドル



たじま ともなり  
田島 智成くん  
（2歳5か月）

智成は、お祖父ちゃんとお祖母ちゃんが大好き。いつも3人で愛犬の北斗と散歩をするのが日課です。可愛い笑顔は、家族を元気にしてくれるビタミン剤。今日も幸せと安らぎを我が家に運んでくれます。皆さんお友達になってください。



ふじむら まずか  
藤村 涼香ちゃん  
（2歳4か月）

運動大好き！ お手伝いも大好き。何でも真似しちゃうぞ!! 男の子っぽいけど寝顔は天使。ちょっぴりはずかしがり屋だけど気軽に声かけてね。

■秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。  
☎・問 役場秘書広報課 ☎(295)2112 内線332

広報もろやま 1月20日号 No.833 〒350-0493 埼玉県入間郡毛呂山町中央2丁目1番地  
■発行 毛呂山町 ■1部当り 31.9円 TEL 049(295)2112 Fax 049(295)0771  
■編集 秘書広報課広報広聴係 URL <http://www.town.moroyama.saitama.jp>

人口36,783人（-63人）  
【男18,352人（-35人） 女18,431人（-28人）】  
世帯15,636戸（-37戸）  
※平成22年1月1日現在（カッコ）内は前月比

口広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。